

第14回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成29年9月1日（金）午前10時～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 4人

報道機関の皆様におかれましては、日頃から遠軽町の情報を町民、また道民にお届けいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

■平成29年第6回遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

・補正予算について

本議会に提出する案件のうち、主なものについて申し上げます。

まず、遠軽町社会福祉協議会が行う有料老人ホーム建設事業に対する補助金についてであります。

高齢化が急速に進む中、可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう、遠軽町社会福祉協議会では、在宅での生活に不安を抱えながらも特別養護老人ホームの入所対象とはならない高齢者を対象として、10部屋の居室と食堂、浴室などを備え、食事の提供や日常生活のお世話をするサービス付き有料老人ホームを、町内西町に建設することになりました。

この事業には、北海道の地域づくり総合交付金を活用することとしており、本議会に補正予算を計上するものであります。これについては、北海道の補助そして町の補助ということになります。

次に、丸瀬布上武利地区給水事業についてであります。

丸瀬布上武利地区には、リゾートホテルとして人気が高いホテルマウレ山荘があり、主にホテルへの給水に加えて、上武利地区の一部住民にも飲料水の供給を行っている給水施設がございます。この給水施設の原水については、大雨による濁りなどもあるため、より安定した取水に向けて地下水源を確保するための調査を行います。

また、新たに水質管理機器を設置するための経費を計上しております。

次に、その他の件についてであります。

■1964東京オリンピック遠軽町展示林について

この展示林につきましては、来る「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会」での活用に向けての検討を行っておりまして、7月臨時議会において、試験伐倒や種子採取のための経費を計上いたしました。

このたび、材質調査のための試験伐倒と種子採取につきまして、9月30日に実施することとしたのでお知らせいたします。

このうち、種子の採取につきましては、展示林の歴史を後世に残すべく、小学生などの子どもを対象に、種子採取体験会とする予定であります。

なお、みどりの循環による展示林の活用に向けて、採取した種子は試験栽培で種をまいて、苗を育てて、2020年のオリンピックイヤーに合わせて、展示林における植樹祭などの実施につなげていきたいと考えております。

■（仮称）遠軽IC道の駅の駅長について

旭川紋別自動車道の建設工事に合わせて整備を進めております、遠軽IC道の駅につきましては、この施設の管理運営の中心を担っていただく駅長の候補者を7月に募集いたしました。

その結果、北海道内外から22人の方に応募をいただき、現在、採用に向けた面接などを行っております。

この道の駅が、オホーツクの玄関口として、町民はもとより、オホーツク地域を訪れる皆様に末永く愛されるような施設運営を担っていただけるよう、慎重に人選を行い、より良い施設運営に取り組んでまいります。

■（仮称）えんがる町民センターについて

建設に向けて準備を進めております（仮称）えんがる町民センターにつきましては、関係団体や一般公募の委員による建設検討協議会を設置し、より良い施設となるよう意見を伺っております。さらに詳細を検討するため、施設部会と管理部会を設置して議論を深め、現在は基本計画を確定させていく作業に入りました。

全体会議やそれぞれの部会では活発に意見をいただいております。今後もさらに検討を重ね、このセンターが市街地ににぎわいをもたらす、末永く町民に愛される施設となるよう取り組んでまいります。

■遠軽町総合防災訓練について

9月3日に遠軽町総合防災訓練を実施いたします。

この訓練は2年に1回実施しております。陸上自衛隊遠軽駐屯地第25普通科連隊をはじめ、関係機関や団体のご協力をいただき、避難所開設や電気・水道の復旧、倒壊家屋からの住民救出などの訓練を行います。

この訓練に合わせて、遠軽地域の自治会では避難訓練などが行われるほか、各総合支所においても避難所の開設訓練を実施します。

昨年、北海道を襲った台風は各地に大きな爪痕を残しました。遠軽町においても、人的被害はなかったものの、河川の氾濫や橋梁の流出など、甚大な被害を受けたところでありまして、こういった訓練を通じて日頃から防災に対する意識を高め、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

また、弾道ミサイル落下時の行動について、参加者にチラシを配布し、速やかな避難行動等についての情報も提供していきたいと考えております。

本日の北海道新聞の朝刊に、防災について色々と書かれておりました。小さな町やある程度の市もそうかもしれませんが、専任の担当者が中々置けない。そういった中で皆さん苦勞されております。遠軽町としましては、以前から1人、嘱託で専門職員を置いておりました。さらに危機管理の資格を持っている職員を正職員で採用して、遠軽町の防災に対してしっかり対応しているところであります。

また、毎年実施しております図上訓練、北海道内の市町村ではおそらく初めての訓練を4年前から続けております。

■遠軽厚生病院産婦人科について

この件につきましては、7月21日に記者発表を行いました。9月から新たに遠軽厚生病院に産婦人科医師1人の常駐が決定したとお知らせしたところでございますが、この医師が、8月に兵庫県尼崎市より遠軽町に転入し、本日から勤務しておりますので、あらためてお知らせいたします。

前回はあまり詳しいことは申し上げられなかったのですが、このたび常駐することとなった産婦人科医師は、鈴木尚子（たかこ）医師50歳であります。

鈴木医師は、本日から妊婦の診療に当たっておりまして、常勤医師が2人体制となりました。遠軽厚生病院からは、従来からの出張医と協力して、さらに診療を充実させていくと報告を受けております。

しかしながら、2人の医師体制では、今までの3人体制に1人足りませんので、引き続き産婦人科医師の確保に向けて取り組むとともに、医療制度の抜本的な改革を訴えて参りたいと考えております。

前厚生労働大臣には、この遠軽厚生病院のことを気に留めていただきまして、さらに新しい大臣にも、遠軽厚生病院については2次医療の大事な病院であり、遠軽町民だけの話ではないのでしっかりと訴えて、医師不足の根本は制度を変えなくてはいけないと思っておりますので、これからも地域医療を守るということで頑張っていきたいと思っております。これは本当にマスコミの皆様、特に都市部の方たちに働きかけていただきたいと思っております。JR北海道の問題もそうですけれども、これは政治的に大きな動きが出ないと制度は変わりませんので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

■（仮称）えんがるクリーンセンターについて

遠軽地区広域組合では建設中の新たなごみ焼却施設につきまして、本年12月末日の完成を目指して工事が進められております。

この焼却施設につきましては、広域組合を構成しております遠軽町・湧別町・佐呂間町の燃やせるごみを1日に32トン、16時間で処理する能力を持ち、現在の施設よりも処理能力が向上することから、ゴムや資源にならないプラスチックなども燃やすことができる施設となっております。

さらに、焼却の際に発生する熱源を、施設内の給湯や暖房、構内のロードヒーティングなどに利用するとともに、バリアフリーな見学エリアを設けるなど、住民の皆さんとともに、これからのごみ処理の在り方を考えていく施設としても、活用が期待されているところであります。

なお、この施設の完成に先立ちまして、正式には12月末完成となっておりますけれども、10月から焼却施設の試運転を行うため、先ほど申し上げましたゴムと資源にならないプラスチックが燃やせるごみに変更になるなど、ごみの分別方法も一部変わります。これまで、燃やせないごみをどうしていたかという、埋立地に持っていかなければいけなかった。そうすると、埋立地がもたないということになって、急きょ焼却炉を建設したところでございます。そういった意味で、ごみの埋立地の延命に大きな貢献になるということになっております。

■白滝発電所事業に係る地域貢献について

白滝には戦後すぐにできた発電所がありました。水力発電所です。小さな発電所なのですが、昨年7月から再稼働しておりまして、それを実施している企業から地域貢献として寄附をいただいております。

この白滝発電所は、平成23年に洪水による被害を受けて運転を停止しておりました。しかしながら、地域住民の強い願いもありまして、再稼働の道を模索しておりました。その結果、施設を民間企業へ譲渡しまして、昨年7月から株式会社工営エナジーにより運転が再開されております。さらに、発電した電力は全量が売電され、その収益の一部を寄附していただくということになっております。

なお、白滝発電所につきましては、今年の台風により被害を受け、3か月ほど停止しておりました。そういった中で、同社により対策も施されて復旧しておりますが、運転から1年ごとに、収益から割合に応じて、町に寄附をいただけるということでもあります。

クリーンなエネルギーとして注目される小水力発電を行うこの発電所について、今後も安定した発電が行われるように期待するところであります。

■スポーツ合宿の誘致について

今年度のスポーツ合宿につきましては、8月末までに、横浜隼人高等学校硬式野球部など、野球が3件14団体、拓殖大学ラグビー部など、ラグビーが9団体、道内高校女子バレーボール部合同合宿でのバレーボール1件16団体のほか、水泳・弓道・サッカー・ソフトボール・クロスカントリースキーが各1団体、合わせて8競技44団体、1,175人の受け入れとなりました。

スポーツ合宿を通じての交流人口によりまして、スポーツの普及や地元の児童生徒の技術向上にもつながるとともに、合宿による宿泊人数は延べ5千人を超えております。地域活性化、並びに地域経済への波及効果も大きいものと考えております。

また、今年4月にオープンいたしました、えんがる球技場と既存施設の併用によりまして、より良い合宿環境が提供できたものと考えております。

なぜ合宿をやっているかという点、遠軽町は医療として遠軽厚生病院が一つの柱です。もう一つ教育では遠軽高校です。いま、部活すらできないという高校もたくさん出てきておりまして、我々のこの地域も遠軽高校が最後の砦としてしっかり守っていかなければいけない。そういった意味も含めてスポーツ施設の整備、合宿をしているということでもあります。

今後も、合宿団体との交流などを通して、スポーツの普及や子どもたちのスポーツ力向上など、地域活性化に向けて合宿誘致に取り組んでまいります。

■観光列車モニターツアーについて

道内を巡る観光列車の可能性を探るため、北海道が企画するモニターツアーにつきまして、今年度の秋から冬にかけて3コースで実施されることになりました。各コースの定員は100人で、国内外の観光客約300人を募り、観光列車のニーズを把握するとのこととあります。

そのうちのひとつとして、札幌を起点とするJR根室本線・釧網本線・石北本線を利用した「道東ゆったり2泊3日」のツアーが11月3日から5日に催行されることが決定したところとあります。

北海道から業務を受託しております株式会社 日本旅行からは、11月5日に「いこいの森観光」として「雨宮21号特別運行」の提案がありました。町としてもぜひ実現させたいと考えているところでありますし、石北本線の維持・存続が危ぶまれる中、こういったツアーが実現され、少しでも利用促進につながるよう期待しているところであります。

■太陽の丘えんがる公園虹のひろばコスモス園について

例年8月中旬から見頃を迎える虹のひろばコスモス園ですが、今年は例年になく6月の長雨により、種まき作業に支障が出たため、コスモスの成長、開花が大幅に遅れております。

また、一部発芽状況が悪い部分もあり、補植などにより改善しておりますけれども、例年のような見頃を迎えるのは困難な状況と判断しているところであります。多くの皆様に、楽しみにしていただいているところではありますが、非常に残念だと思っております。

そのような中ではありますが、9月10日には、コスモス園を舞台に、コスモスフェスタ2017イベントを開催いたします。ゲストに西郷輝彦さん、May J.さん、こおり健太さんをお迎えしてのコスモスコンサートをはじめ、自衛隊音楽隊やがんぼう太鼓による演奏、ヒップホップダンスなど地元の皆さんにもステージを盛り上げていただきます。コスモスの花は少ないかもしれませんが、秋のひとときをぜひ会場でお楽しみいただきたいと思います。

なお、このコスモス園の状況を踏まえて、9月10日の「コスモスフェスタイベント」は入園料をいただきますが、そのほか、今年度は入園料をいただかないと決定したところであります。こちらに来られる方には、知らないで来られる方もおりますので、正直に状況を皆さんにお伝えしていきたいと思っております。

私からは以上です。